

プロジェクト情報

- 国名：マダガスカル
- 事業名：中央高地コメ生産性向上プロジェクト
(技術協力プロジェクト)
- 協力期間：2009年から2015年
- 相手国機関：農業省

1. プロジェクトの概要・背景

マダガスカルの人々はコメを主食としており、国民一人当たりのコメ消費量は、日本人の約2倍の年間120キログラムです。農民の7割以上が稲作に従事しています。しかし、サイクロンなどの影響でコメの国内生産量が変動しやすく、コメ消費量の約10%を輸入に頼っています。マダガスカル政府は、2008年からの10年間で、コメの収量を3倍に増加させるとともに、コメの輸出国になることを目指しています。JICAは人口集中地域の中央高地のコメの増産を目標に、2009年にプロジェクトをスタートさせ、コメの生産性向上のための「技術パッケージ」の開発をはじめ、種子の増殖・配布体制やコメ生産技術の指導体制の整備などに取り組んでいます。

2. ジェンダー視点から見たマダガスカルの農村の状況

マダガスカルで2001年に行われた調査によると、78%の女性が農業に従事しており、自給自足用農作物の半分以上を生産しています。農村部の女性は農作業以外にも、水汲みや薪集め、調理などの家事や育児も負担しており、それらすべての労働を合わせると、1日に16-18時間も働いているという結果が出ています。また、一般的に、家庭内の意思決定は男性が担っており、特に、収入が少ない家庭ほど、男性が収入についての決定を独り占める傾向にあります。

3. ジェンダー視点に立った取り組み

(1) 「機会の平等」の確保

プロジェクトが日々の活動の中で目指しているのは、研修などに、男女（夫と妻）に同じように参加してもらう、いわゆる「機会の平等」を徹底することです。なぜなら、農業は男女が共同で作業するものであり、男女両方に受け入れられてこそ技術や教材も効果的な普及ができるからです。具体的には以下のようなことに取り組んでいます。

①男女（夫婦）が経験を共有する：夫婦で研修に参加したり、普段は女性がする作業を男性がしたり、男性の作業を女性が体験してみたりし、経験を共有しました。

②男女が意見を言いやすい環境を作る：マダガスカルの場合、研修などの場で、男性がいても女性が意見を言いにくい雰囲気はないのですが、それでも意見を言いづらい人にも話してもらえよう、男女のトレーナーやファシリテーターを配置しています。

③男女が共同で決める：プロジェクトが開発した「技術パッケージ」の改訂に関する意見や、家計管理の仕方など、男女が共同で決めるよう促進しています。



(2) 男女に受け入れられやすい技術や教材の開発

①男女それぞれの意見に基づいた技術の改良：マダガスカルでは、稲作の作業について、明確な男女の役割分担があります。そのため、プロジェクトが導入した新しい技術についても男女で異なる意見が出されることがあります。そこで、男女の意見に基づき、実際にその作業を担う人の労働が軽減されるよう、さらに技術の改良を進めました。また、除草機を使った除草は本来は男性の作業なのですが、男手のない寡婦の女性でも使いやすい手押し車の除草機も開発しました。

②教材に女性が登場！：稲作の作業は男女半々で分担しているにもかかわらず、これまでマダガスカルで実施された様々な農業プロジェクトの教材を見ると、絵や写真は男性ばかりでした。そこで、プロジェクトでは、教材に積極的に女性を登場させ、「農業技術は男性だけのものではない」ということをアピールしました。

女性は多くの農作業を担っています。その女性が新しい技術を習得し生産性を向上させることは、世帯の生計の向上にも直結します。プロジェクトの取り組みがマダガスカルの他の農業案件にも広がるのが期待されます。